

中小企業診断士の視点

第47回 ITの力を引き出すには？



中小企業診断士 竹松 和友
一社)埼玉県中小企業診断協会

公益財団法人日本生産性本部が発表した2018年版の「労働生産性国際比較」によれば、日本の時間当たりの労働生産性は、OECD加盟36カ国中20位と低く、その背景としてICTへの投資額の少なさが指摘されています。一方、同年の「小規模企業白書」では、ITを導入する際の課題として、「導入の効果が分からない、評価できない」との回答が48.3%で最も多く挙げられていました。

今回は、ITはどれも苦手でお悩みという中小企業・経営者様に、IT導入、活用の効果を得るために必要な考え方のエッセンスをご紹介します。

(1) 事前準備を十分行う

IT導入には、事前準備が必要です。まず、経営目標を設定した上で、業務で「やること／やらないこと」を決め、名称や処理手順を整理し、必要なリソースを割り振ります。例えば、POSレジを導入する場合、商品マスタ（品名、カテゴリ、価格など取扱商品の情報）を整備しましょう。また、業務フローの変更や省略の検討も必要で、押印や手書きサイン、文書・帳票の必要性などを棚卸します。加えて、オフィスや店舗のレイアウト、通信ネットワークなど環境面、リモートワークや雇用形態の多様化への対応、取引先との注文・納品・請求方法等現状に問題がないかも確認します。

(2) 「ITにしたがって」業務改善を続ける

クラウド型ITサービスやツールは、数十万～数億ユーザに利用されており、利便性が最大限に高められています。したがって、まずは導入したサービスやツールの機能に沿って業務を進めるのが得策です。導入直後に一時的に効率が悪化したとしても、ある程度慣れるまで（3カ月程度、あるいは無料の期間や機能の範囲内で）使い続けましょう。それにより、定型化されたデータが蓄積され、グラフや表を作成できるなど、必ず何かしらの気づきを得られます。気づきをもとに、社内でフラットに議論を深め、さらなる改善や効果の引き上げにつなげます。

(3) IT人材を確保する

社内にIT人材を確保しましょう。新規採用が難しい場合は担当者を決めて、その社員の能力開発を支援すべきです。実務や集合型研修はもとより、書籍や機器の購入も選択肢となります。ソフトウェアやツールの利用方法を動画で解説するサイトも登場しており、社員のスキルアップに非常に効果的です。さらに、IT活用の取り組みをネットやメディアに発信することで、ITスキルを保有する有能な人材が自社に関心を持ってくれる可能性も高まります。

経営コンサルティングを業務とする中小企業診断士は、ITを経営の視点からとらえ、データを分析し、次の一手への支援を行うことができます。お気軽にご相談ください。

【問い合わせ先】

埼玉県中小企業診断協会

ホームページ：<https://sai-smeca.com/>

電話：048-762-3350

Eメール：rmcsai@nifty.com